

長洲島「饅頭祭り」

香港駐在員事務所

秘書 Hau Siu Yun, June

香港は、国際的な金融先進都市であると同時に、古くから伝わる様々な民俗習慣が今でも根付いています。本稿では、弊所のある香港島中心部からフェリーで約40分の長洲島で、毎年多くの観光客を集める伝統行事「饅頭祭り」をご紹介します。

「饅頭祭り」は、100年以上の歴史を持つユニークな伝統行事です。その昔、長洲島で疫病が大流行した際、人々が神に扮して島を練り歩き疫病を鎮めたのが始まりと言われていています。疫病が治まった後も毎年同じ時期に、饅頭の高い塔を奉納して神様に感謝するとともに、疫病が二度と起こらないことを祈るようになりました。

このお祭りの最大の呼び物は、何と言っても「搶包山（チャンパオサン）」です。「搶包山」とは高さ十数メートルの饅頭の塔「包山」をよじ昇り、頂上の饅頭を奪い取るレースです。このレースはあまりの熱狂ぶりに1978年に塔が倒れる事故があり、負傷者が出たため一時中止されていました。しかし、復活を望む多くの声に後押しされ、2005年に安全面に考慮した新ルールで26年ぶりに復活しました。「包山」とは竹で出来た骨組みの周囲に饅頭がびっしりと貼り付けられたものです。2006年までは本物の饅頭を使っていましたが、「レース後に周辺が汚れる」「もったいない」との意見が多く、2007年から作り物を使用しています。お祭り最終日に行なわれる決勝戦には、予選を勝ち抜いた10名ほどの選手が出場します。饅頭は高い位置にあるものほど得点が高く、制限時間（3分）以内に獲得した饅頭の得点合計で優勝者が決められます。



写真2 長洲饅頭祭り「搶包山」の様子。

(出所：http://searchina.ne.jp/)

饅頭祭りには「搶包山」用の饅頭だけでなく「食べる」饅頭も、もちろん売られています。どの店の饅頭にも赤で「平安」の文字が書かれおり、食べると無病息災、幸せになると言われています。中身は蓮の実の餡に白ごまが少々混ざっています。皮はほっこり、餡も甘すぎずしっとりしていてとてもおいしいです。

その他にも、お祭り最終日に行われる子供たちを乗せた山車「飄色（ピュシ）」のパレードもメインイベントの一つです。パレードには獅子舞や楽隊、旗を持った人々も参加していますが、やはり主役は歴史上の人物や現在の政治家などの有名人に扮した子供たちです。赤や黄色の色とりどりの衣装に身を包み、化粧を施した子供たちの姿はお人形のようにかわいらしく、棒に支えられ高く持ち上げられた状態で、山車の上から沿道の見物客に笑顔で手を振ります。



長洲島は、普段は昔ながらの海鮮料理店が軒を連ね、白砂のビーチや豊かな自然が広がる静かなリゾート地として有名です。

ただ、毎年5月の「饅頭祭り」期間中だけは、海外からの観光客を含め約3、4万人の見物客で一杯になり、島全体が賑やかになります。皆様も、ぜひこの時期に長洲島にお越し頂き、「饅頭祭り」を満喫して下さい。お祭りの後は、新鮮な海鮮料理を味わいつつ、ふらりと島内観光をするのも楽しそうです。

写真2 かわいい子供のパレード「飄色」。(出所：http://allabout.co.jp/)